

北っ子 敷島北小学校だより

令和6年4月17日

学校長 増坪広夫

令和6年度がスタートしました！

新年度がスタートしました。昨年に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。今年から学校運営協議会（コミュニティスクール）も始まりますが、地域と連携しながら、敷島北小教育を、さらに充実・発展させていくために、教職員一同、「チーム学校」として教育活動に邁進してまいります。



さて今年度は4月8日（月）に体育館で新任式と始業式が行われました。4名の転入生を迎え、全校児童は昨年度と同じ187名となります。職員も新採用者や転任者が加わり、外国語指導助手など兼務の職員等を入れると33名の職員で敷島北小教育に関わっていきます。地域そして保護者の皆様の御支援と御協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

敷島北小学校教育目標

4月の職員会議では校長としての所信表明とも言える敷島北小教育に関するグランドデザインや学校経営について話しました。全国にどれだけの小学校があるかわかりませんが、学校の大きさにかかわらずどんな学校であっても、公立小学校の教育の柱は「知・徳・体」の3つになります。知とは確かな学力、徳とは豊かな心、体とは健やかな身体をさします。公立の小学校であれば全国どこの学校に行ってもこの三本柱が示されています。

本校の学校教育目標は、次のようになっています。

学校教育目標

ともに学び、ともに生きる、心豊かな子どもの育成

よく学び
よく考える子
（知育）



ともに
学び

健康で
たくましい子
（体育）



ともに
生きる

思いやりのある子
（徳育）

こころ
豊かな子



当たり前ができる子ども

コロナ禍の時には日常生活でのマスク着用が当たり前でした。この「あたり前の行動」は、時代や環境によって変化するものもあれば昔から変わらないものもあります。「挨拶をする」「名前を呼ばれたら返事をする」「丁寧な言葉遣いをする」「学校や世の中のきまりを守る」「人に親切にする」「自分を大切にする」など数え上げたらきりがありませんが、こうしたことを学校では学ばせたり諭したりしていきます。もちろん学校で学ばせる分野もあれば、家庭が受け持つ部分もあると思っています。



ただ「当たり前」を日常的なものにしていきたい反面、我々大人が当たり前慣れすぎて驚きや感動に鈍くなってしまうのも問題です。私も長く教員生活を続けてきましたが、知らず知らずのうちに「そんなことで当たり前」「やればもっとできるはず」という考えが先行して、その子自身のわずかな成長を見逃してしまうことがあったような気がします。



例えば、50m走で子どもが初めて「10秒台になりました」と報告してくれたときに「じゃあ次は9秒台だね」と迷わず言っていたような気がします。もちろん次の目標を示すことも教育の大きな役割ですが、どんな小さなことでも、まずは「11秒をきって10秒台に入れたこと」を手放しで大げさなくらいに子どもとともに喜べる教師でありたいと今更ながら思うわけです。

先生方にも「やればできる（伸びる）」の考えのもと「わずかな伸び代を見出せる教師であること」「わずかな伸び代を見逃さないプロであること」をお願いしました。

また「当たり前」は家庭生活にも深く関わります。自転車の乗り方、お小遣いなどの使い方、ゲームをする時の約束などは家庭教育での範疇だと思っています。一方では集団で学びを共有して子どもを成長させることなどは学校の得意分野だと思っています。これら多くの「あたり前の行動」は、学校や家庭とかに縛られるものではなくすべての子どもたちに身につけさせたいことであり、子どもの教育に関しては保護者の皆様と同じ方向を向いて進んでいけたらいいなと思っています。

はきものをそろえると心がそろう

今年も「下駄箱の整理整頓」に取り組んでいます。張り紙を貼って指導している学年もありましたが、靴がそろった児童玄関は、なんとも気持ちのよいものです。基本的な生活習慣の一つでもあります。ご家庭でも当たり前のようにできることを期待しているところです。



自尊感情を育てる



昔から「七つほめて三つしかれ」と言われるように、「褒めて伸ばす」指導がよいとされています。ほめられて悪い気がする人はいないからです。また「ほめる」ことで良い自己イメージを持つことが出来るようになります。家族同士ではちょっと照れくさい面もあるかと思いますが、まずは身近なところから、学年が上がってワンランク成長したお子さんに励ましの声かけをお願いします。